

短時間・テーマ限定のセミナー

**まもなく
開始します！**

**知りたいことだけ
サクッとセミナー**

学術情報セミナー資料（動画）は、図書館 HP
HOME > 研究支援 > リサーチ・commons >
『知りたいことだけ!サクッと学術情報セミナー』に掲載しています！
https://www.lib.niigata-u.ac.jp/research_support/seminar.html

セミナーのすすめかた

1. セミナー (15分程)

2. 質問タイム (5分程)

- ✓ 質問のある方はマイクをオンにしてご発言ください。
- ✓ チャットでも質問を受け付けます。

ご質問などお気軽に情報調査係まで：c-sougo@lib.niigata-u.ac.jp

知りたいことだけサクッと学術情報セミナー@Zoom

オープンアクセスの歩みと 新潟大学オープンアクセス 方針の策定について

2021年度

新潟大学附属図書館

本日の内容

1

1. オープンアクセスの始まりと理念
2. オープンアクセスの展開
3. とはいえ、オープンアクセスの現状と課題
4. さらに、オープンデータへ
5. 新潟大学オープンアクセス方針策定の取組み
6. 参考資料等

★以降、本文では「オープンアクセス」を「OA」と記載

1. オープンアクセスの始まりと理念 ²

商業出版社の寡占システムへのアンチテーゼとして

- 始まりは、冊子体時代から始まっていた、学術雑誌の商業出版社寡占の進行と価格高騰への対抗
→1998年 SPARC誕生（学協会の高品質低価格な学術雑誌刊行支援等）
 - 寡占と価格高騰は、電子ジャーナルの普及と包括契約（Big Deal）の出現により加速
→2000年頃始まった包括契約は、購読規模維持と価格上昇が前提
- ◎2002年2月、ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ（BOAI：Budapest Open Access Initiative）で策定された「ブダペスト宣言」でOAの理念・定義を明文化
- インターネット経由で、なんらの制限なく論文をダウンロードでき、合法的なやり方で利用できること
 - 実現手段としては、「セルフアーカイビング（Green OA）」と「OAジャーナル（Gold OA）」

1. オープンアクセスの始まりと理念

3

オープンアクセスの2手段

- セルフアーカイビング (Green OA)
 - 著者自身がインターネット上で公開すること
 - △ 著者等のWebサイト
 - 機関リポジトリ
 - 専門分野別のアーカイブ (arXiv.orgなど)
 - 政府系助成機関アーカイブ (PMCなど)
- オープンアクセスジャーナル (Gold OA)
 - 無料でアクセスできる電子ジャーナルを創刊し、また、そうしたジャーナルに論文を发表すること
 - Gold : オープンアクセスジャーナルに掲載された論文
 - Hybrid : 著者が費用を負担することによりOAとなる論文
 - △ Bronze : 出版社Webサイトで無料閲覧できるが、明確な許諾条件が公開されていない論文

※ 「△」は、長期的アクセスの担保、アクセス情報 (URL、handle、DOIなど) の同一性の確保について、不安定と思われるもの

2. オープンアクセスの展開

新たな期待や環境への対応

- 大学等学術機関への説明責任、社会貢献の要請
→機関リポジトリでは「責任あるアーカイブ」が可能
- 大学等学術機関側からの情報発信やブランディング強化
- 政策面からのOA推進の要請
→研究開発の費用対効果を上げるとともに、学際的な研究を促し、イノベーションの創出等を期待
→研究助成機関によるOAの推奨または義務化

◎ これらを背景に、機関としてOA推進の姿勢を内外に示すため、OA方針の策定・公開が進んだ

→ 日本では京都大学（2015年4月）を嚆矢に、2021.11.22現在44機関

* オープンアクセス方針・実施要領リンク集（JPCOAR）

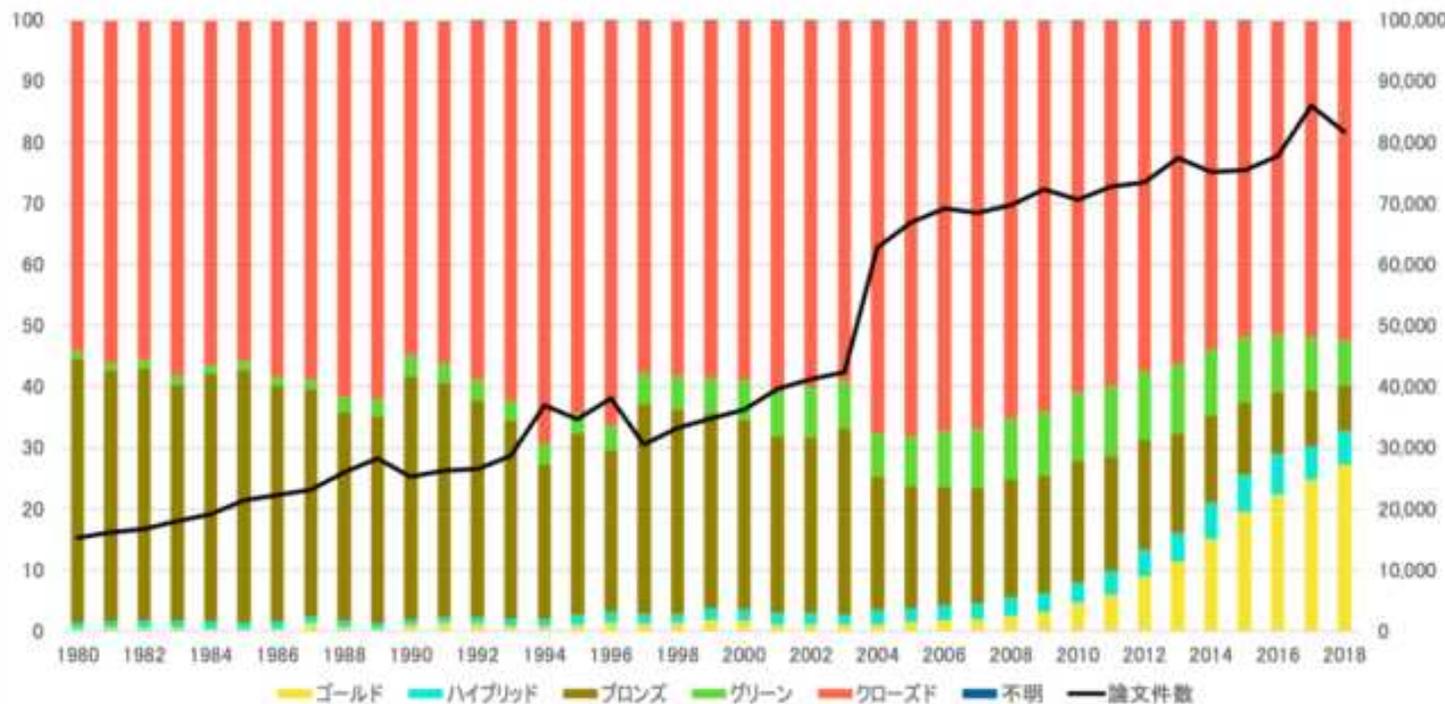
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/53>

3.とはいえ、オープンアクセスの現状と課題

全体数としてOA論文は増加傾向にある

日本における出版年ごとのOA状況（「クローズド」＝非OA論文）

※Scopus掲載論文をUnpaywallを使用して分析しているため、主たる分析対象は海外学術雑誌の掲載論文



出典：西岡 千文; 佐藤 翔: "Unpaywallを利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査", p.44, 図8

https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016

3 .とはいえ、オープンアクセスの現状と課題⁶

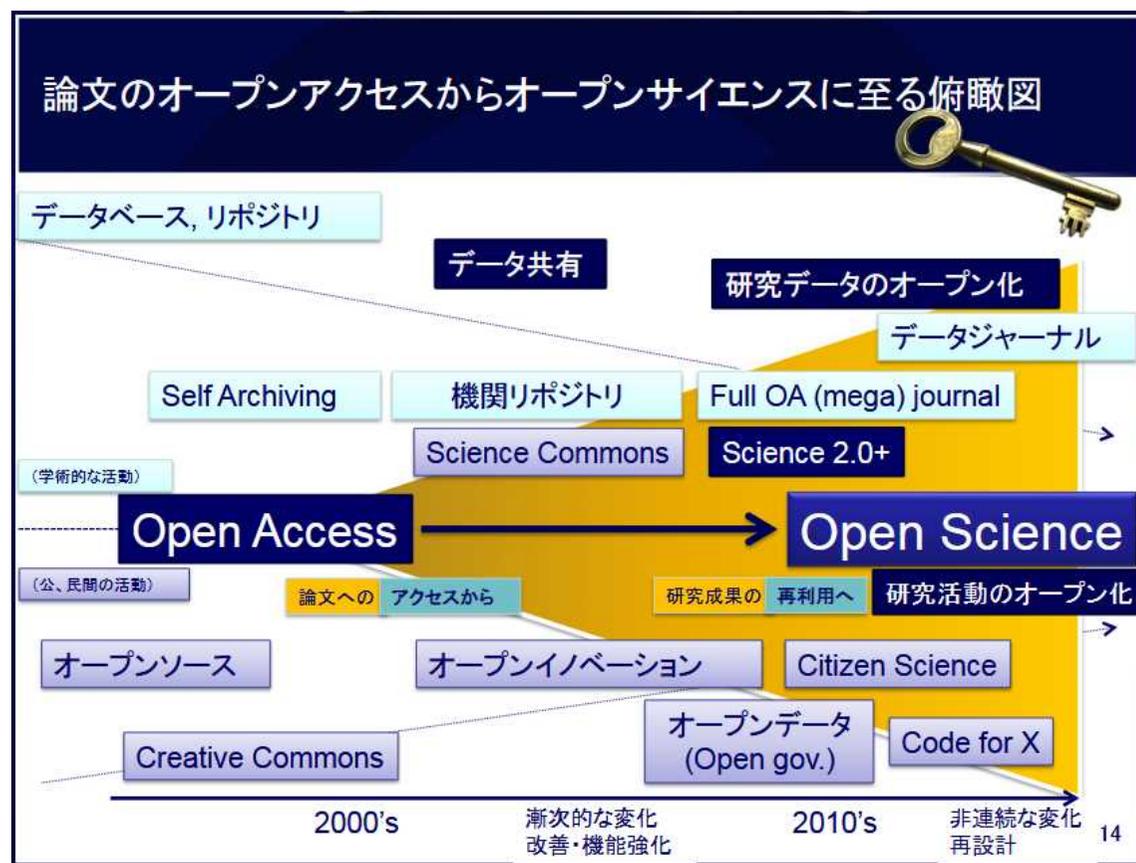
増加傾向にはあるが、、、

- Gold OA (Gold & Hybrid) では
 - OA誌の刊行、論文OA化が増える一方、商業誌では「論文掲載料 (APC = article processing charge)」という新たな負担が発生
 - さらに、論文掲載料を狙う「ハゲタカジャーナル」が出現
- Green OA では
 - 機関リポジトリ構築数は、世界5,772機関 (OpenDOAR, 2021.11.19現在) 日本831機関 (IRDB, 2121.9現在) まで拡大
 - 日本の機関リポジトリの大半は、自機関の紀要論文と博士論文の公開が中心で、期待されていた学術雑誌掲載論文の登録は低調
 - * 機関リポジトリへの登録総数との比率 (2021.5現在)
 - 紀要論文及び博論：全国(IRDB)で約55%、新潟大学では約81%
 - 学術雑誌掲載論文：全国(IRDB)で約14%、新潟大学では約9%
 - 出版点数内での比較では、専門分野別の論文アーカイブ等を含めた Green OA全体としても、総点数の 10%程度 (前頁グラフ参照)

4. さらに、オープンデータへ

学術コミュニケーションの変容に伴う政策展開

- オープンアクセス → オープンデータ → オープンサイエンス



「公的資金による研究
データ管理・利活用に関
する基本的な考え方」

が、第9回統合イノベーション戦略推進会議（令和3年4月27日）にて決定され、

その実施について、大学等研究機関に対しては、文部科学省から通知が発出された（令和3年6月2日）

4.さらに、オープンデータへ

「公的資金による研究データ管理・利活用に関する基本的な考え方」の主な内容（時限あり項目）

- 研究データ基盤システム（NII Research Data Cloud）を中核的なプラットフォームとして位置付け、産学官における幅広い利活用を図るため、メタデータ（データを説明するための情報から構成されるデータ）を検索可能な体制を構築する。（2023年度まで）
- 研究開発を行う機関は、データポリシーを策定し、機関リポジトリへの研究データの収載を進める。（機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人においては、2025年までにデータポリシーを策定）
- 公募型の研究資金の全ての新規公募分について、メタデータを付与する仕組みを導入。（2023年度まで）

※統合イノベーション戦略推進会議（第9回）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/9kai/9kai.html>

5.新潟大学オープンアクセス方針策定の取組み⁹

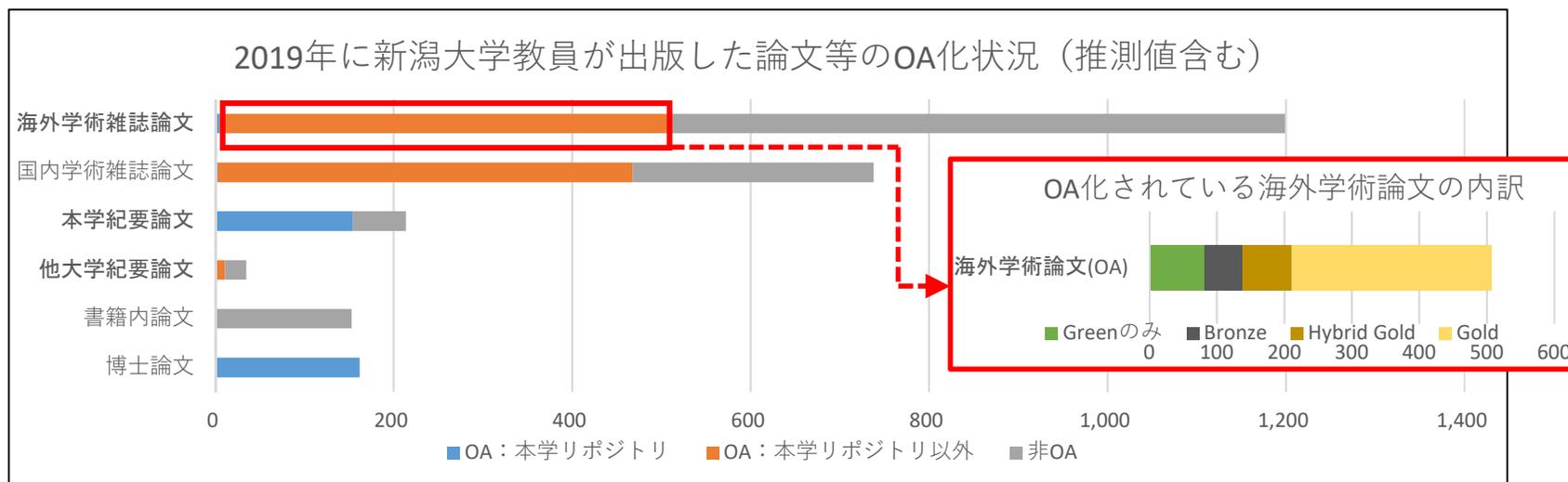
検討経緯、スケジュール（審議中）

- 令和2年4月：担当理事よりOA方針策定の検討指示
- 令和2年11月：役員ミーティングにてOA方針の必要性を確認
- 令和3年3月～8月：附属図書館委員会の下に「新潟大学オープンアクセス方針検討ワーキング」設置、原案検討
→7月に「オープンアクセス実施状況等に関するアンケート」を
学内教員を対象に実施し、検討の参考とする
- 令和3年9月～10月：附属図書館委員会にて、ワーキング
原案を検討し、附属図書館委員会案として承認
- 令和3年11月26日：大学研究委員会（全学委員会）承認
- 令和3年12月以降：教育研究評議会（全学委員会）に附議
し、令和3年度中の成立を目指す

5.新潟大学オープンアクセス方針策定の取組み

目的・方向性

- 本学の教職員等が執筆する学术论文（共著含む）を広く無償で公開することを求めるため策定する
- 主要な論点は、OA義務化レベルと公開方法
→附属附属図書館委員会作成の案では、「OA推奨」「公開方法はGold OA誌への出稿や新潟大学学術リポジトリへの登録等、著者の選択を尊重」をベースに文案を作成



※国内学術雑誌論文のOA分は、ほぼJ-Stageと医中誌Webに登録されている

5.新潟大学オープンアクセス方針策定の取組み

研究データ管理との関係

- 今回定めるOA方針には、研究データを対象に含めない
→研究データポリシー策定前に、新潟大学学術リポジトリへの登録が必要になる場合には、「新潟大学学術リポジトリ運用指針」に基づき対応する
 - 策定されるOA方針の学内浸透を図り、研究データを含むオープンサイエンスの推進に向けて気運を醸成する
 - 今後、研究データポリシーの策定を行う際、OA方針及びリポジトリ運用指針を点検し、必要な見直しを行う
- ◎ポリシー策定の過程で、各機関において論文公開方法や機関リポジトリの位置づけが再整理されると予測される

6. 参考資料等

関連語句、Webサイト

- [2p] SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) : <https://sparcopen.org/>
- [2p] ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ (BOAI : Budapest Open Access Initiative) : <https://www.budapestopenaccessinitiative.org/>
- [3p] arXiv.org (物理学、数学を中心にプレプリントを含む様々な論文を保存・公開するオンラインアーカイブ) : <https://arxiv.org/>
- [3p] PMC (PubMed Central、生物医学・生命科学のオンライン論文アーカイブ) : <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/>
- [3p] handle、DOI (Digital Object Identifier) : インターネット上にある電子化されたコンテンツに付与される永続的なデジタルオブジェクト識別子
- [4p] JPCOAR (Japan Consortium for Open Access Repository、オープンアクセスリポジトリ推進協会) : <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>
- [5p] Unpaywall (Our Research が提供するオープンアクセスの論文情報を集約するサービス) : <https://unpaywall.org/>
- [6p] OpenDOAR (Open Directory of Open Access Repositories、世界の機関リポジトリのディレクトリ) : <https://v2.sherpa.ac.uk/opensoar/>
- [6p] IRDB (Institutional Repositories DataBase 学術機関リポジトリデータベース (日本)) : <https://irdb.nii.ac.jp/>
- [9p] 新潟大学学術リポジトリ : <https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/>

6. 参考資料等

参考文献及びWebサイト

- OAの歴史・現状、機関リポジトリ

尾城孝一; 古市みどり: "オープンアクセスの現在地とその先にあるもの", 大学図書館研究, Vol.109, 2018. (オンライン)
<https://doi.org/10.20722/jcul.2014>

西岡 千文; 佐藤 翔: "Unpaywallを利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査", 情報知識学会誌, Vol.317, No.1, pp.31-50, 2021. (オンライン)
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016

林正治: "機関リポジトリの将来像< 図書館総合展2021NIIフォーラム1「機関リポジトリからみた管理・検索基盤」>", 2021.11.9 (オンライン)
https://www.nii.ac.jp/event/upload/libfair2021_forum1_2.pdf (最終閲覧日: 2021.11.18)

- オープンデータ、オープンサイエンス

林和弘: "オープンアクセス、オープンサイエンスの展望と研究データ利活用促進ならびに大学運営から見た大学図書館への期待<平成28年度国立大学図書館協会地区助成事業近畿地区協会講演会「オープンサイエンス推進状況下での大学図書館の役割を考えるーオープンアクセスの推進と研究者IDの動向ー」>", 2016.10.21 (オンライン), <http://hdl.handle.net/2433/217342>

林和弘: "オープンアクセスの進展が生み出す学術ジャーナルと論文の変容とオープンサイエンス<科学技術・学術審議会情報委員会ジャーナル問題検討部会(第7回)資料1>", 2020.10.27 (オンライン)
https://www.mext.go.jp/content/20210225-mxt_jyohoka01-000010684_1.pdf (最終閲覧日: 2021.11.18)

- 研究データポリシー策定

"大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン" (AXIES: 大学ICT推進協議会)
<https://rdm.axies.jp/sig/70/> (最終閲覧日: 2021.11.18)

"AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定ワークショップ"
<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/event/20210928ws> (最終閲覧日: 2021.11.18)

ご清聴ありがとうございました。